

各リスク要素の概要

(2003 年 2 月「The firm risk assessment framework」より抜粋・仮訳)

[http://www.fsa.gov.uk/pubs/policy/bnr_firm-framework.pdf#search='The%20firm%20risk%20assessment%20framework' 参照]

リスクグループ

リスク要素

経営戦略（ビジネスリスク）

1. 経営戦略の質

全般的な経営戦略から生じるリスク。これらは戦略立案過程の質、戦略の達成可能性、戦略の意味するもの、特にリスク選好性、戦略実行の記録

戦略策定プロセス

- ・ 高いレベルの目標設定の過程及びそれを詳細な短期間の業務及び運用に移行する過程
- ・ ビジネスを行う上での環境の変化に対応するためのフレームワーク
- ・ 規制上の優先事項に対応する過程

戦略の達成度

- ・ 高いレベルの目標の性質
- ・ 同規模・同種のグループとどのように戦略を比較しているか
- ・ 活動する市場、販売する商品及び販売チャネルの状況及び性質
- ・ 費用構造の変化の程度及び性質
- ・ 市場シェアの変化の程度及び性質

鍵となる分野に対する戦略の意味

- ・ リスク選好度
- ・ 合併／吸収／企業分割
- ・ 人員／技術
- ・ 財務状況
- ・ IT
- ・ 統制
- ・ 外注の利用

実行

- ・ 展開が変わった場合の代替策を含む実行計画の質
- ・ 実行過程を遡るための過程（MI など）
- ・ 戦略の変化の実行に関する経営陣の経験
- ・ 目的達成のためのトラックレコード

リスクグループ

リスク要素

経営戦略（ビジネスリスク）

2. ビジネス特性

企業が行おうとしているビジネスの性質に起因するリスク。これらは企業の製品、サービス、顧客及び/あるいは利用者そして会員そしてそれら相互の関係から生じるリスク

戦略上ターゲットとしている顧客、利用者あるいは会員

- ・ リテール顧客の種類－富裕層、裕福な層、中間層、低所得者層
- ・ 大口顧客の種類－中小事業者、大手法人、団体
- ・ 主力市場及び利用者あるいは会員の種類－現金顧客、オンライン、プロ相手
- ・ 差別化された市場を正確に狙う能力、顧客及び利用者あるいは会員の忠実度
- ・ これら差別化された市場にサービスを提供し、提供し続ける能力

戦略上ターゲットとする市場

- ・ 地理的分散及び活動する市場のリスクの性質－英国か否か、英国内かあるいは新興市場か先進市場か
- ・ 政治的障害のリスク
- ・ 産業セクターの分散

戦略上ターゲットとする製品／サービス

- ・ 製品及びサービスの範囲及び性質
- ・ 顧客、利用者及び会員層の選択の適切さ
- ・ 製品及びサービスの競争力
- ・ 製品及びサービスの価格付け

リスクグループ	リスク要素
市場、信用、保険引受け、オペリスク(ビジネスリスク)	3. 信用リスク

企業が抱える信用リスクの種類及び性質から生じるリスク。これらは企業のリス選好度、企業の製品及びサービスに含まれるカウンターパーティー・エクスポージャーの性質、ポートフォリオの性質及び信用リスクの緩和の性質及び程度を含む。

リスク選好度

- ・信用に関する考え方の質及びリスクに対する立場(保守的か積極的か)
- ・経験及び戦略的方向に合致しているか
- ・リスク選好度が取締役会の基準及び価値を反映する程度

製品の性質

- ・以下を含むバランスシートにおけるカウンターパーティーに対するエクスポージャーの性質(規模、傾向、複雑性及び流動性)：
 - －担保付か無担保か
 - －投資対象有価証券か
 - －再保険か
 - －インターバンクによる取引か
- ・以下を含むオフバランスにおけるカウンターパーティーに対するエクスポージャーの性質(規模、傾向及び複雑性)：
 - －デリバティブ(FX、金利、信用、エクイティ、商品)
 - －偶発的エクスポージャー(利用されていないコミットメント枠、保証、スタンドバイ信用状)
 - －引受け(ローン、有価証券)
- ・決済の性質、清算かの1日限りのエクスポージャーか
- ・清算会社/清算システムの利用

ポートフォリオの性質

- ・地理、セクター、顧客、再保険会社及び利用者又は会員の集中
- ・その他のリスク、とくに金利リスク及びFXリスクとの相関
- ・関連したエクスポージャー
- ・量、セクター及び集中の傾向
- ・ポートフォリオの質の傾向(カウンターパートの格付け、劣後、不良資産)

リスク削減

- ・担保(種類、質、マージン、評価の頻度、文書化)
- ・ネットティング及び清算の調整
- ・保証
- ・再保険

リスクグループ	リスク要素
市場、信用、保険引受け、オペリスク(ビジネスリスク)	4. 保険引受リスク

企業が引き受けた保険の種類及び性質に起因するリスク。これらは企業のリスク選好度、企業の製品・サービスに関連する保険引受けのエクスポージャーの性質、ポートフォリオの性質及び再保険でカバーされるものの性質及び程度

リスク選好度

- ・ 保険に関するリスクに関する考え方及び再保険の購入を含むリスクに対する立場(保守的か積極的か)
- ・ 経験及び戦略的方向に合致しているか
- ・ リスク選好度が取締役会の基準及び価値を反映する程度

製品の性質

- ・ 以下を含む保険リスクに関するエクスポージャーの性質(規模、傾向、複雑性及び流動性)：
 - － 財産及び災害(リテールあるいは商業ベース)
 - － 生命保険
 - － 健康保険
- ・ 付与された保証の性質

ポートフォリオの性質

- ・ 地理、セクター、顧客、ブローカーあるいは再保険業者の集中
- ・ 量、セクター及び集中の傾向
- ・ ビジネス・セクター毎の請求の状況(請求/プレミアム、支払済/未払請求分)
- ・ アクチャリーの仮定の変化がもたらす影響

再保険

- ・ 再保険でカバーされるものの性質(集中、リスクのマッチング、文書化)
- ・ カバーの適切性及び妥当性

リスクグループ	リスク要素
市場、信用、保険引受け、オペリスク(ビジネスリスク)	5. 市場リスク

企業が有する市場リスクの種類及び性質から生じるリスク。これらは企業のリスク選好度、企業の製品及びサービスに含まれる市場リスクの性質、ポートフォリオの性質を含む。

リスク選好度

- ・金利リスクに関する考え方の質及びリスクの規模(保守的か積極的か)
- ・経験及び戦略的方向に合致しているか
- ・リスク選好度が取締役会の基準及び価値を反映する程度

製品の性質

- ・自己勘定取引と顧客・利用者・会員から持ち込まれた取引の混合度合い
- ・利用された市場―店頭市場か取引所か
- ・以下を含む製品の性質(複雑性、変動可能性、流動性)
 - ―現金(債券、エクイティ、商品)
 - ―デリバティブ(金利、FX、エクイティ、商品)
- ・以下を含む簿外取引の金利リスク
 - ―銀行の銀行勘定における金利リスク
 - ―保険会社の投資ポートフォリオにおける市場リスク
 - ―流通していない外国為替リスク(移動中のエクスポージャーを含む)
 - ―他の内包されたリスク

ポートフォリオの性質

- ・ポジションの規模及び性質
- ・ポートフォリオの流動性と非流動性に対する脆弱性
- ・他のリスク、とりわけ信用リスクとの相関関係
- ・集中の傾向
- ・ポジションの傾向

リスクグループ	リスク要素
市場、信用、保険引受け、オペリスク(ビジネスリスク)	6. オペレーショナルリスク

企業の活動に起因するオペレーショナルリスクの種類及び性質から生じるリスク。これらは不適切かつ間違った内部手続き、人員あるいはシステムあるいは外部的要因に起因する直接的あるいは間接的な損失を含む(注：統制環境に関するオペレーショナルリスクは関連する統制セクションで評価される)。

リスク選好度

- ・オペレーショナルリスクの性質と規模(保守的か積極的か)
- ・金融資源あるいは評判に対する許容度及び基準
- ・戦略的方向性への合致
- ・リスク選好度が取締役会の基準及び価値を反映する程度

人員からのエクスポージャー

- ・オペレーショナルリスク・エクスポージャーについての経営陣の認識
- ・ビジネスの性質及び戦略に鑑みたスタッフの教育及び監督の適切性
- ・人事政策の適切性
- ・資源の特性(例：従業員数、恒久的/一時的スタッフの割合、スタッフの離職率)

プロセス及びシステムからのエクスポージャー

- ・取引の複雑性及び量が付与された場合の手作業及び自動化されたプロセスの状況及び適切性
- ・プロセスの失敗及びシステム障害の頻度及びインパクト(例：顧客・利用者の苦情、規制上の罰金、システムがダウンした時間、突合に係る障害やプロセッシング及び文書化の際のエラー)
- ・プロセス及びシステム上の欠陥が、市場、信用及び保険リスクシステム又は統制あるいは他の規制上の要請に対する影響

変化に起因するエクスポージャー

- ・環境変化の程度(新たな技術、法的枠組み、市場構造ほか)
- ・新たなスタッフ、カウンターパーティー及びサプライヤーの程度
- ・既存のプロセス及びシステムに関する新しいかつ重大な変化の程度
- ・既存の商品及びビジネスに関する新しいかつ重大な変化の程度
- ・重大な企業活動のプレゼンス(例：吸収、合併及び処分)

企業構造に起因するエクスポージャー

- ・部門とスタッフ間の関係及び独立性
- ・企業構造の複雑性(例：複数かつ離れたロケーション、多数の法的主体及びグループ企業からの独立)
- ・外注化の複雑性に対する依存

リスク削減

- ・保険によるカバー

リスクグループ	リスク要素
市場、信用、保険引受け、オペリスク(ビジネスリスク)	7. 訴訟/法的リスク

企業の契約の種類及び性質に起因するリスク。これらは適用対象となる法律の下で契約が執行不可能となるリスク及び商品・サービスの性質が企業を訴訟に対し脆弱なものにするリスクである。

根拠—一般的なもの

- ・ ビジネスに適用される法の不透明さ及び曖昧性
- ・ 企業の顧客及び利用者又は会員の管轄地域内における法の不透明さ及び曖昧性
- ・ 不適切な商品及び顧客、利用者又は会員に係る契約書
- ・ ターゲットとする市場(地理的かつ商品的に)に適用される法的フレームワーク及び顧客、利用者及び会員の法的な立場

根拠—他のリスクの種類にリンクするもの

- ・ 信用リスク(例:ローン・アグリーメントの期間、法的に担保を処分する能力)
- ・ 保険引受けに係るリスク(例:請求に係る訴え)
- ・ 市場リスク(例:複雑なデリバティブ契約に係るトリガー条項の法的性質)
- ・ オペレーショナルリスク(例:外注に係る契約の法的性質、他の管轄内におけるサブキャスト・ディアン・アレンジメント)

経緯及び傾向

- ・ 企業によるあるいは企業に対する現在の訴訟
- ・ ビジネス及び損失の種類による訴訟を通じた損失のトラックレコード

緩和

- ・ 保険によるカバーの性質及び適切性

リスクグループ

リスク要素

健全性(ビジネスリスク)

8. 資本の適切性

企業の資本の状況に起因するリスク。これらは企業の自己資本の計画に係るフレームワーク、資本の構成及び質、現在及び今後予期される企業活動を支えるだけの資本の適切性及び追加の資本を賄うだけの準備金の規模を含む。

自己資本に係る計画のフレームワーク

- ・現在かつ今後予期されるビジネス及び関連するリスクに応じた資本上の要請の評価の過程
- ・ストレステスト及びシナリオテストの活用

構成及び質

- ・資本の構成
- ・質の低い形態の資本の利用(例:劣後、償還可能、ハイブリッド、黙示的項目)
- ・負債を資本として取扱うことを含むグループ構造の中での資本の位置付け

資本の適切性

- ・以下の事項の適切な考慮
 - －オンバランス及びオフバランスの拡大の傾向及び予測
 - －すべての種類のリスクの内部評価
 - －規制による資本の要請
 - －資本及び配当の計画された支払い
 - －ストレステスト及びシナリオテスト
- ・合併／吸収を含めた大きなイベント

準備金の適切性

- ・貸倒引当金
- ・保険請求に係る準備金
- ・市場リスクの評価及び流動性準備金
- ・訴訟リスクに対する準備金

資本へのアクセス

- ・過去における資本の追加のトラックレコード
- ・既存あるいは新たな株主から資本を引き出す能力
- ・資本を調達するための市場の状況(母国における状況を含む)

リスクグループ

リスク要素

健全性(ビジネスリスク)

9. 流動性

企業の流動性あるいは資産/負債の混合に種類及び性質に起因するリスク。これらは流動性管理のフレームワーク及び日常的に、また危機において事務的かつ財務的な義務を賄う流動性の構成を含む。

流動性の管理のフレームワーク

- ・ 流動性政策の性質
- ・ ファンディング管理と流動性維持の間の適切性
- ・ 異なった、また悪いシナリオのケースに対するコンティンジェンシープラン

流動性の構造

- ・ ファンディングの構造及び分散—卸売りかりテールか、マチュリティの構造、グループの資源に対する依存、未引出しのコミットメントの性質
- ・ ファンディングの供給源の変動可能性
- ・ 流動資産の質(保有資産の連結性の評価を含む)
- ・ ファンディングコスト
- ・ 連結主体への／からのファンディング
- ・ 資金供与者の集中(卸売りかりテールか)

流動性へのアクセス

- ・ 市場及び格付機関の見方
- ・ 親会社あるいは他のグループ企業からの支援の可能性及び確実性
- ・ 資金供与者との関係の強さ

必要な流動性の予測

- ・ 資源、信頼性及びデータの適時性
- ・ 予測のトラックレコード
- ・ コンティンジェンシープランのテストの頻度及び経験

リスクグループ

リスク要素

健全性（ビジネスリスク）

10. 収益性

企業の収益特性から起因するリスクには、収益の適切性、収益の変動、収益性、予算に応じたパフォーマンスの業績を含むものである。

収益及び収益の実績

- ・ 収益性の全体的な水準
- ・ 収益源、収益の変動及び集中（金利収入、非金利収入、取引収入、保険料収入）
- ・ コストやリスクをカバーし、利鞘を供給するための商品の価格設定
- ・ 臨時収入源への依存度
- ・ 臨時支出の影響
- ・ 会計実務の堅実さ
- ・ パフォーマンスのピアグループとの比較

予想収益

- ・ 予算見積の従前からの正確性
- ・ 収入源の安定性
- ・ 戦略的イニシアチブの影響
- ・ 主要ビジネス分野/市場の収益における変化の影響
- ・ 経営環境における今後予測される変化の影響（例 競合他社の手法、技術、法制、監督）

リスクグループ	リスク要素
顧客特性/利用者及び商品/サービス（ビジネスリスク）	11. 顧客/利用者/会員の類型

現下の顧客、利用者または会員基盤の特性から起因するリスク。

顧客類型

- ・ 企業の顧客分類
- ・ 規制されている商品の、個人、仲介者または市場での取引相手毎の分類

顧客の特性

- ・ 商品に対する理解や売却を不適切に行う傾向がある顧客の特性（例 経済的資力、知識、社会人口学的特性、関連知識）
- ・ 金融犯罪を犯す傾向がある顧客の特性（例 前歴、より高いリスク領域にとどまる傾向）
- ・ 企業にとって風評リスクを招きかねない顧客の特性

リスクグループ

リスク要素

顧客特性/利用者及び商品/サービス（ビジネスリスク） 12. 業務収益源及び利益分配

メカニズム

現下の企業にとってのビジネスソースや企業による分配メカニズムの特性から起因するリスクには、仲介や海外の顧客の発掘といったことも含まれる。

ダイレクト

- ・異なる分配チャネルの使用（例 支店網、インターネット）
- ・顧客のリピート買いや多様な商品の販売の程度
- ・リピート買いや、多様な商品を買ってもらうための方法
- ・ダイレクトメール、広告、インターネット、ツリー歩行、顧客選別のためのアンケートといった新規の顧客、利用者、会員の獲得方法
- ・新しいビジネスで、既存の顧客、利用者、会員及び新規の顧客、利用者、会員をとり込む方法
- ・新規の顧客、利用者、会員へのセールスをもたらす新しいチャネルの開発

仲介

- ・仲介者を活用する程度
- ・仲介者市場の活用方法
- ・仲介者との関係特性

海外

- ・英国外部からの顧客、利用者、会員の範囲
- ・海外の顧客、利用者、会員の分布
- ・海外の顧客、利用者、会員を獲得する方法
- ・海外の新規の顧客、利用者、会員へのセールスをもたらす新しいチャネルの開発

リスクグループ	リスク要素
顧客特性/利用者及び商品/サービス（ビジネスリスク）	13. 商品／サービスの類型

当該リスクは、会社から供給される最近の金融商品や金融サービスの特性から引き起こされる。これらは、商品の複雑さ、取引期間及びパフォーマンスを含む。

複雑さ

- ・ 複雑あるいは不透明なストラクチャーの使用
- ・ 市場、場所、リスク要因及び取引相手方の種類の範囲
- ・ 他のグループエンティティに対する営業活動への信頼
- ・ 何らかの保証、上限や下限の種類
- ・ 電話詐欺、資金洗浄や資金詐欺などの金融犯罪に係る金融商品の露出

期間/パフォーマンス

- ・ 長期貸出と販売された保険と投資商品の範囲と特性
- ・ 早期の契約終了条項
- ・ 柔軟性（例えば多様な期間に対する顧客の許容力）
- ・ 顧客に特定の状況にならないように契約を終結させる会社の能力
- ・ 潜在的な価格変動性
- ・ 顧客のパフォーマンスの合理的な説明

法律

- ・ 販売されている海外投資スキームや他の金融商品サービスの類型
- ・ 販売されている海外投資スキームや他の金融商品サービスの法律

顧客/利用者或いはメンバーの資産

- ・ 保持されている或いは管理されている顧客と従業員或いはメンバーの資産の範囲と類型（私的と間接金融と市場の取引相手、預金と投資、規制と無規制）
- ・ 第三者（例えばサブカस्टディアン）或いは会社自身に保持されている顧客や利用者或いはメンバーの資産の範囲

サービス

- ・ 助言サービスの範囲
- ・ サービスのみの執行の範囲
- ・ マネージド・アカウントの範囲
- ・ 研究の条項の範囲

リスクグループ	リスク要素
顧客特性/利用者及び商品/サービス（ビジネスリスク）	14. 市場効率（主要マーケットのみ）

当該リスクは、価格形成プロセスから引き起こされる。これらは、*適当な流動性の引当及び取引前後の透明性の水準を含む。*

流動性

- ・ 流動性の補助或いは促進する調整
- ・ マーケットメイキングへの関与

透明性

- ・ 価格形成の調整
- ・ 取引前後の透明性の調整
- ・ 公正で秩序だった取引を確保するためのプロシージャ
- ・ 不適切取引（例えば、洗淨取引、便宜取引など）の予防への関与
- ・ 仲介の調整
- ・ ブロックトレーディングに関するルール、適用と法令遵守
- ・ 遅れた公表の調整

リスクグループ	リスク要素
顧客特性/利用者及び商品/サービス（ビジネスリスク）	15. 適切な市場

当該リスクは、承認済みの投資取引を通してのディーリング業務の特性から引き起こされる。

市場特性

- ・与えられた投資における自発的に取引あるいは保持している投資家の範囲
- ・保持あるいは投資取引に関する制限、あるいは取引量に関する制限
- ・投資取引契約の決済あるいは譲渡の手段
- ・マーケットの参加者が合理的な情報に基づく、投資の取引量や内包するリスクについての判断を可能にする公共の場における情報の種類

リスクグループ	リスク要素
顧客/利用者の待遇（コントロールリスク）	16. 販売強化トレーニング及び採用

当該リスクは雇用者の質や販売部門に対する訓練手続きにおいて引き起こされる。

採用

- ・ 役職に関する潜在的な新人の知識や技術を考慮に入れた手続きの妥当性
- ・ 従前の活動や研修に関する効率的な情報を入手することに対する手続きの妥当性

研修

- ・ 売上と倫理慣行との間の調和を確保すること
- ・ 訓練者が知識や消費者のリスク選好を評価することを可能にするような研修
- ・ 活動に関連する計画、仕組み及び研修の評価の妥当性

能力の獲得

- ・ 販売員の役職に関する能力の評価に関する手続きの適切性
- ・ 適格な承認試験を合格した、或いは適切な免除を持つ個人を確保することに関する手続きの適切性（研修と能力に係るスコアブックを参照）

能力の維持

- ・ 技術知識、技能及び市場、金融商品、法律及び規則への変化を考慮しながら、特定の役職に対して有能であると評価されるような個人を確保することに対する手続きの妥当性

監督能力

- ・ 監督のレベルが十分であることを確保する調整の適合性
- ・ 研修及び従業員による能力の調整に関する認識

リスクグループ	リスク要素
顧客/利用者の待遇（コントロールリスク）	17. 職員の俸給基準

当該リスクは従業員に対する報酬スキームの種類により引き起こされる。

戦略策定プロセス

- ・ 人事政策の透明性
- ・ 起こり得る違法行為或いは詐欺に関する報酬政策の影響度合い
- ・ 報酬政策によって生じる違法行為や詐欺に係るリスクを減少させやすい手段

戦略の達成度

- ・ 給与とコミッションあるいは販売力の相違に対する賞与における報酬の分布
- ・ 給与とコミッションあるいは違法行為や詐欺が起こり得る会社の中の他分野に対する賞与における報酬の分布
- ・ 誤解を生じさせるような広告に対する顧客のクレームの数と種類
- ・ 違法行為や詐欺の歴史及び報酬の種類に対する相関性

リスクグループ

リスク要素

顧客/利用者の待遇（コントロールリスク）

18. 財務促進

当該リスクは会社によって用いられた金融商品の販売広告や広告慣習の種類により引き起こされる。

戦略策定プロセス

- ・ 広告戦略の実態と本質
- ・ 政策承認に関する責任
- ・ 政策に順ずる手続きの適切性
- ・ 適当な F S A の規則とガイダンス及び他の産業の標準、例えば、公平、透明、ミスリードしない、に順ずる手続きの適切性
- ・ 法令等遵守に対する責任

戦略の達成度

- ・ 社内政策への忠実性
- ・ F S A の原則、規則、及びガイダンスと他の産業の標準への忠実性
- ・ 誤解を生じさせるような広告に対する顧客のクレームの数と種類

リスクグループ	リスク要素
顧客/利用者の待遇（コントロールリスク）	19. 顧客/利用者/会員の承認、広告、報告

顧客区分のオペレーションから発生するリスク（KYC）と文書化の手順、アドバイスの質（例えば安定性、顧客のリスク及び負担の理解など）、及び顧客そして／もしくは利用者ないし会員の報告のオペレーション

顧客の受入

- ・顧客及び／もしくは利用者ないしは会員の合意（クーリングオフの条項が適切に盛り込まれている）が形成されていることを確認する手続の十分性
- ・顧客及び／もしくは利用者ないしは会員の適切性の評価手続、及び顧客及び／もしくは利用者ないしは会員による、当該企業及び／ないしは仲介者によって提供されるサービスの理解の十分性
- ・仲介者の利用により発生した問題も含め、利害問題の係争についてのレビューの十分性
- ・民間顧客による権利放棄の手続の十分性
- ・仲介者の評価手続の十分性
- ・業務の質の評価手続の十分性

助言業務

- ・推薦の適切性を確認するステップの十分性
- ・（適時更新された KYC 情報を含め）助言に対する文書化された理由の記録の十分性
- ・顧客のリスク認識を確認するステップの十分性
- ・現状の契約（パッケージ商品）を置き換えたときに、不適切な助言業務を回避するステップの十分性
- ・安定を条件とした有価証券に対する適切な説明を確認するための手続の十分性
- ・取引における企業の重大な関心の申告を確認する手続の十分性
- ・（当該企業の報酬〔ソフト手数料や同等のものも含む〕と仲介者によって課せられるいかなる追加的負担の双方を完全に開示することを含めて）合理的な負担を開示する手続の十分性

報告及び苦情処理

- ・契約の報告を適時発行することを確認する手続の十分性
- ・定期的なステートメントの発行手続の十分性
- ・過去の売上の変化に関するコミュニケーションの十分性
- ・受けた全ての苦情処理に関する手続の十分性
- ・受けた苦情から修得するシステムの十分性

過程の記録

- ・FSA の原則、ルール、ガイドライン及び他の業界基準の遵守
- ・承認、助言、報告に関する顧客の苦情の数及び特性

リスクグループ	リスク要素
顧客/利用者の待遇（コントロールリスク）	20. 取引及び管理

顧客資産のディーリング及びマネージングから発生するリスク

マネージング

- ・以下を含んだ業務ルールの管理に従ったマネージングの手続の十分性
 - － 顧客の投資基準の遵守
 - － 重大な利害関係
 - － 企業自身のポジションの観点からの顧客の構成な取扱い／新たな問題点の割り振りと他の利害の係争分野
 - － 手数料
 - － 過度な売買勧誘

ディーリング

- ・以下を含んだ顧客資産のディーリングの手続の十分性
 - － 利害の係争
 - － 適時の履行
 - － 最適な履行
 - － 適時の分配
 - － 公正な分配
 - － 公表された調査／分析／推薦より前のディーリング
 - － 顧客が指図した優先順位
 - － 偶発債務取引
 - － 未決もしくは非建値投資
 - － 市場の悪用および顧客借入
 - － インサイダー取引
 - － 安定
 - － 引受
 - － 投資調整ディーリング
 - － 合同運用スキームの設定、運用、解散
 - － 第三者により管理されている顧客による過剰な取引

プロセスの記録

- ・ FSA の原則、ルール、ガイドライン及び他の業界基準の遵守
- ・ 取引及び経営に関する顧客の苦情の数及び特性

リスクグループ	リスク要素
顧客/利用者の待遇（コントロールリスク）	21. 顧客/利用者/会員の資産の安全性
企業が顧客/利用者/会員のお金及び資産を保有及び/ないしはコントロールしていることから発生するリスク	

安全性の確保

- ・以下に対する手続の十分性
 - － 分散
 - － 登録と記録
 - － 保有
 - － 安全な保管投資の移転
 - － 保管人の適格性
 - － 顧客及び/もしくは利用者ないしは会員の合意
 - － リスクの開示
 - － ステートメントの作成、内容、発送
 - － 保管人の合意
 - － 保管人の合意
 - － 貸株及び買収契約書
 - － 調停

顧客の資金

- ・以下に対する手続の十分性
 - － 顧客資金の識別
 - － 顧客の銀行及び中間ブローカー口座
 - － 銀行及び中間ブローカーの状況に関する知識
 - － 決済銀行及び中間ブローカー口座
 - － 分散
 - － 顧客資金口座への、及び同口座からの資金支払い
 - － 利子の配分と支払い
 - － 調停

過程の記録

- ・ FSA の原則、ルール、ガイドライン及び他の業界基準の遵守
- ・ 資産の安全性に関する顧客の苦情の数及び特性

リスクグループ	リスク要素
顧客/利用者の待遇（コントロールリスク）	22. 商品資料のディスクロージャー／ 適切性

企業により発行される商品資料の特性から発生するリスク

責任

- ・ 商品資料の準備に対する責任の割当て
- ・ プロセスにおける法令等遵守の役割

手続

- ・ 規制及び非規制商品に対する商品資料方針の存在と特徴
- ・ 方針承認に対する責任
- ・ 方針遵守手続の十分性
- ・ 以下の明確化を含んだ FSA ルール及びガイダンスを遵守する手続の十分性
 - － 適用可能な商品に対する主要な特徴が記載された文書
 - － 必要な保護情報
 - － 販売前引出条項
 - － 販売後解約条項
 - － 企業及び他の当事者の情報開示に対する責任

過程の記録

- ・ 内部方針の遵守
- ・ FSA の原則、ルール、ガイドライン及び他の業界基準の遵守
- ・ 商品資料のミスリーディングに関する顧客の苦情の数及び特性

リスクグループ	リスク要素
顧客/利用者の待遇（コントロールリスク）	23. 会員の管理 (発言を許されている会員のみ)

会員のオペレーション/認識された企業体からのアクセス調整から発生するリスク

案件に対するアクセス

- ・ ルールの構造的な有効性
- ・ 会員ないしは利用者の技術的なスキル
- ・ 実践されている業務の会員ないしは利用者の規模及び複雑さ
- ・ 認識された企業体もしくはその主な取引相手に対するエクスポージャーについての、会員ないし利用者の財源
- ・ 客観的で差別のない会員基準
- ・ 間接的なアクセスに対する責任
- ・ 海外の会員の金融上の罪に対するセーフガード
- ・ 電子アクセスを許容するのに実施した調整

リスクグループ

リスク要素

組織（コントロールリスク）

24. 法律上／所有構造の透明性

企業ないしはグループの構造から発生するリスク。これらは法的所有構造の特徴と規制者に対する構造の公開を含んでいる。

構造特性

- ・ 法的構造の特性（例えば持株会社の役割など）
- ・ 業務単位構造に対する法的構造の関連性
- ・ 構造と理由の複雑性

オーナーシップ

- ・ より広いグループの中で承認された企業体のポジション
- ・ オーナーシップ店の明確化
- ・ 結びつきの解除

構造に対する態度

- ・ 企業内の法的構造の理解
- ・ 会計監査人の変化を含んだ、組織的な構造に対する変化の頻度

規制者に対する構造の公開

- ・ 全体として構造に対する異なった規制者による監視における規制上の差（例えば連結規制の欠落など）

リスクグループ	リスク要素
組織（コントロールリスク）	25. 会計監査／グループ構成の管轄／特質

企業の会計監査の特徴から発生するリスク。これらは株式保有者の会計監査の管轄及び特質、及び他のグループ構成の特徴を含んでいる。

会計監査の権限範囲

- ・ 母国の規制上の監視の特徴
- ・ 会計監査の金融上の強さもしくは当該企業をサポートする能力に影響を及ぼす、母国の経済的法的環境の特徴

会計監査の特質

- ・ 現状の提示された業務ラインにおける同一性、特徴及び過程の記録
- ・ 会計監査の規制上のステータス
- ・ 企業に対する金融上及び他のサポートを提供する能力及び意志

グループ構成

- ・ 重大なグループ構成の特徴
- ・ 規制上のステータス
- ・ 内包された法的管轄
- ・ グループ構成間の結びつきの解除
- ・ グループ構成の法的ないしは構造的ステータスに対する母国からの環境上の影響

リスクグループ	リスク要素
組織（コントロールリスク）	26. グループの残りの人々との関係
<p>企業と当該グループの残りの人々との間の関係から発生するリスク。これらはマネージメント調整、中央集権化された機能、より広いグループの財務上の健全性及び活動、及び他のグループ構成に対する財務上及び他の依存度に対する信頼性を含んでいる。</p>	

関係の特性

- ・ 法的構成ガバナンスの特徴
- ・ 報告ライン
- ・ グループのいかなる部分によって、公式ないしは非公式に行われるコントロール及び影響の度合い
- ・ マトリックスマネージメント調整の透明性及び明示

集権機能

- ・ 場所（例えばオフショアオペレーションなど）
- ・ 企業活動に関連したグループコントロール機能の有効性 — リスク管理、コンプライアンス、内部監査、ファイナンス、商品コントロール、投資戦略
- ・ ITリンケージ
- ・ 同一グループ内の異なる企業の相互依存性の明示

財務上の相互依存性

- ・ 相互依存性の特徴 — 資本、資金、流動性、関連業務
- ・ グループの財務上の健全性、及び相互依存性が存在するグループ組織
- ・ グループ組織が相互依存上の義務ないし要求を満たす能力に関する制約

商品／市場の相互依存性

- ・ 企業が当該グループの他の部分のために販売する、あるいはその逆の商品及びサービスの特徴
- ・ グループ構成によって顧客及び／もしくはユーザーないしは会員に対して提供される商品／サービスのデリバリーの影響
- ・ グループ企業間で販売された商品及びサービスによって作られた販売不成立ないしは金融負債

より広いグループの活動

- ・ グループ企業間での利害係争の管理
- ・ 特別目的企業体の利用
- ・ グループの他の領域での出来事及び活動の影響（金融上の罪、金融上の弱点、顧客販売不成立及びコントロール不全）

リスクグループ	リスク要素
内部体制および内部統制（コントロールリスク）	27. リスク管理

適時かつ適切な手法により、業務リスクを識別し、測定し、監視し、統制するためのシステム及び手続の特徴及び有効性から発生するリスク。これらは、信用リスク、保険引受リスク、市場リスク、オペレーショナルリスク、法務リスク及び新たな商品リスクを含む。

高いリスクに対する方針

- ・ リスクを望ましいものとしようとする取締役会のプロセス、及びリスク管理プロセスの権限委任管理のプロセス
- ・ 特定のリスクタイプ、取引相手、及び業務活動に対する受入可能なエクスポージャー水準に、応じて、上級経営者によって実践されるリスク戦略
- ・ コミュニケーションの有効性及びリスクカルチャーの維持
- ・ リスク管理を目的とした企業活動に内包された全てのリスクの程度
- ・ 資本配賦、適切な準備及び引当方針に対する責任
- ・ スタッフに対する報酬体系とリスクカルチャーとの間の整合性

リスク特定

- ・ リスク特定の責任
- ・ 業務に対するリスクの特定のプロセス
- ・ 業務に内包されたリスクの変化をレビューする規則性
- ・ 新たな商品の承認プロセスの特徴及び有効性

リスク評価／測定

- ・ リスク評価及び計測の頻度、完全性及び正確性
- ・ 使用されるデータソース及びタイムフレーム（例えば、市場価格、ポジション情報、実際のデータ、デフォルト率、オペレーショナル損失など）
- ・ リスクの複雑性及び水準が仮定された場合、モデルの使用を含めたリスク評価及び測定ツールの適切性及び頑健性
- ・ 使用されるリスク評価／測定ツールの検証の頻度及び信頼性
- ・ 取引、ポートフォリオ、業務ユニット及び全体における市場、信用、保険及びオペレーショナルリスクの評価及び測定能力

リスクモニタリング

- ・ 全ての識別されたリスクが監視されることを確認する方法
- ・ 監視報告の頻度、時間、正確性及び明示
- ・ 経営及びスタッフに対して配布される報告
- ・ 予め決定した制限及び閾値（個々の取引相手及びグループに対するエクスポージャーを含む）に対するリスクポジションの比較可能性

リスクコントロール及びリスクマネジメント

- ・ リスクコントロールとマネジメントプロセスの独立性
- ・ リスクコントロールとマネジメント機能におけるスタッフの経験、質、スキル
- ・ 上級経営者に対するリスクコントロール及びマネジメント機能からの報告ライン
- ・ 設定前の制限内にリスクが収まっていることを確認するためにとられる行動
- ・ 例外報告の特徴及びフォローアップと段階的拡大の証拠

リスクグループ	リスク要素
内部体制および内部統制（コントロールリスク）	28. 方針、手順、制御

リスク管理方針、リスク管理手続き及び内部管理の実態から生じるリスクとそれらの実施状況

リスク管理方針、リスク管理手続き及び内部管理の適切性と質

- ・財務上の正確性と健全性、顧客の資産を守ること、詐欺や市場操作（マネーロンダリングについては別に考慮）から守ること、書類上の記録の安全性（電子記録については別で考慮）を確保するための、リスク管理方針、リスク管理手続き及び内部管理の適切性
- ・事業が計画され、組織され、管理されている方法に関する適切性
- ・ビジネスについて、その規模、特性、量及び取引の複雑さと契約実態についての適切性
機能の分化
- ・利益相反の可能性や、詐欺や、市場の乱用のリスクを減少させるための機能の分化の使用及びその実効性（例えば、トレーディングやポジションの評価、取引の開始及び承認）

経理

- ・収益と費用の配分方針の一貫性及び客観性
- ・異なる金融商品に対する会計方針を確保する手続きがその経済上の取組み（投資、売買、ヘッジ目的など）と整合的であること
- ・企業の会計及び取引データの完全性と正確性を確保する手続き、全てのリスク（信用リスク、保険引受リスク、市場リスク、オペレーショナルリスク及び法務リスク）の源から発生しうる損失をカバーできる現実的な水準の引当金を確保できるような方針や手続き
- ・全ての金融商品に対して、独立の評価が確保できるような手続きが適用されていること

運営上の管理

- ・取引記録の完全性及び正確性を確保し、詐欺の機会を減少させる手続き（例えば、独立した照合）、独立した確認、独立した承認、決済及び有価証券の移動のための承認手続き

リスクグループ	リスク要素
内部体制および内部統制（コントロールリスク）	29. 経営情報

経営管理情報の特性から発生しうるリスク、これらは、その適切性、正確性と経営管理情報の配布についての実効性及び効率性だけでなく、その適切性、関連性及び適時性も含む

全体的な適切性

- ・ 事業特性及びタイプについて
- ・ 地理的な分散について
- ・ 会社の行動に含まれるリスクについて

取締役会及び経営幹部による使用

- ・ 事業の見直しや挑戦及び戦略的あるいは、経営上の判断を行う際の実効性、経営幹部による情報の使用

適時性、正確性及び配付

- ・ 報告頻度及び事業上の必要性に対する適切性
- ・ 作成及びその質に対する適切性
- ・ マニュアルでの作業も含め使用されるシステムの範囲及び検証や照合のプロセス
- ・ 照合できなかった項目や失われたデータのフォローアップも含め正確性及び完全性のためクオリティーコントロールプロセス
- ・ 報告の階層

質

- ・ 財務上の情報の適切性、例えば
 - － 損益に関する情報（事業部門、地域毎、商品毎、会社毎の内訳及び予算との比較）
 - － バランスシート及び資本の状況（例えば、内部外部の流動性、大口与信、所要自己資本のルールに関する遵守状況の分析）
 - － 予算に対する大きな変動額及び予算に対する乖離の説明
 - － 経済資本及び経済的な収益性の計測方法の使用
- ・ 事業上の指標の適切性、例えば、
 - － 顧客や使用者あるいは会員のデータ（例えば、会員等の増減データ、満足度指標、苦情データ）
 - － 同業他社との比較（例えば、マーケットシェアデータ）
- ・ リスク情報の適切性、例えば、
 - － 信用リスク（例えば、与信限度に対する相手先リスク、オフバランスシートリスク、遅延及び不履行情報についての分析、引当）
 - － 保険引受リスク（例えば、限度に対する引受額、集中、クレームパフォーマンス）
 - － 市場リスク（例えば、感応度及び VaR 限度と商品及び地域の使用状況）
 - － オペレーショナルリスク（重要な運営上の指標、例えば、処理ミス、事業の中断、詐欺、法的、文書上のミス、統計及び苦情を取扱う指標）

リスクグループ	リスク要素
内部体制および内部統制（コントロールリスク）	30. IT システム

IT インフラに係る内部管理が発生するリスク。これらは、資源の適切性、実施手続き、安全性のフレームワークの実効性など、IT インフラが経営管理するプラットフォームとして適切であるということも考慮することも含んでいること

仕組みと組織

- ・ 責任とレポーティングラインの明確になっていること
- ・ 経営幹部に対する報告義務
- ・ IT 資源の適切性
- ・ IT に関する義務の分別化の適切性（立案対実施）
- ・ ガバナンスの仕組み（例えば、運営委員会、技術上のミーティング）

プロジェクト管理

- ・ 提案されたプロジェクトの有用性を評価する方法
- ・ プロジェクトの承認及び優先順位を決めるプロセス
- ・ 複数のまたお互いに関連するハイレベルな管理を行うためのプロセス

IT の実施

- ・ 実施プロセスにおける含まれているビジネス領域の特性
- ・ デザイン及び立案能力や水準感の特性
- ・ システム統合の必要性を明らかにするアプローチ
- ・ システムのテストや確認、使用者の研修及びサポートへのアプローチ

セキュリティ情報

- ・ セキュリティ方針の存在とユーザにより方針が理解されていること
- ・ セキュリティ事故に対する報告及び対応に対するアプローチ
- ・ セキュリティ方針の遵守についての処分に対するアプローチ
- ・ エンドユーザのコンピュータ操作に対するアプローチ
- ・ ウィルス管理に対するアプローチ
- ・ IT セキュリティのテストの適切性（例えば、試験的なハッキング、セキュリティ監査）

有用性／性能

- ・ 現在の商品環境における問題を認識し解決する方法
- ・ 予想されるサービスを規定するサービス契約の特性
- ・ 必要なキャパシティを予測する方法
- ・ 特に問題のある領域に対するトレンド分析の使用
- ・ 非常時の回復テスト

リスクグループ	リスク要素
内部体制および内部統制（コントロールリスク）	31. 財務報告、定期レポート、会計方針

財務上及び当局への報告の特性から生じるリスク、財務上及び当局へ報告の適切性、正確性、関連性、適時性及び会計方針の適切な適用を含んでいる

財務上の報告

- ・株主及び関連する市場に対する財務上の報告の適時性及び明確性
- ・確立された会計基準に則り、包括的で適切な会計方針が一貫して適用されていること。
- ・会計方針の文書化に適用される基準
- ・内部や外部で生じている事柄と報告が整合的であることを確保するメカニズム
- ・一定の範囲のリスクから発生する適切にカバーする方針の適切性（例えば、トレーディングに対する流動性準備金、貸倒引当金）

当局への報告

- ・FSA や他の当局から要求されているデータを正確に報告する能力
- ・適時に報告する能力
- ・当局への報告への責任を明確にしていること

リスクグループ	リスク要素
内部体制および内部統制（コントロールリスク）	32. 法令等遵守

コンプライアンス機能の特性及び実効性から発生するリスク、これは、使命、構造、スタッフ、方法論及び実効性を含んでいる

参照するマニフェスト及び規定

- ・ 参照される規定及び目的等それらの承認の水準
- ・ 全体的なリスクフレームワークにおける役割
- ・ 事業及び関連する記録に対するアクセス

仕組み、レポートライン及び資源

- ・ グループと事業ラインのコンプライアンスの仕組み
- ・ レポートライン及び説明責任を果たす機能及び経営者へのアクセス
- ・ コンプライアンスと外部内部監査とのリンク
- ・ 外部資源の使用
- ・ 事業及び経営幹部に対する信頼性

方法論

- ・ 方針及び手続きの文書化の包括性
- ・ コンプライアンス部門が従業員に対する研修の内容及び頻度
- ・ 取引を勧誘する際の使用
- ・ 内部及び外部の遵守するためのコンプライアンスモニタリングプロセスの適切性含む
 - － 事業ユニット及び取引部署のチェック
 - － 取引の監視
 - － 利益相反の手続き（例えば、コントロールルーム、チャイニーズウォールと物理的な隔壁）

案件調査

- ・ 例外的な事柄を確保し、あるいは適時に提言を伝えるプロセスの適切性
- ・ 例外的な事柄をモニタリングし、もしくは提言するためのプロセスの適切性
- ・ 述べられなかったことに対するプロセスを急速に促すプロセス

リスクグループ	リスク要素
内部体制および内部統制（コントロールリスク）	33. 内部監査

内部監査機能の実効性から発生するリスク、これらはマニデート、仕組み、スタッフ、方法論、実効性を含む

参照するマニデート／参照する規定

- ・参照される規定及び目的等それらの承認の水準
- ・全体的なリスクフレームワークにおける役割
- ・全ての帳簿や記録に無制限にアクセスする能力
- ・外部監査人や財務上の会計士との連携

仕組み、レポートライン及び資源

- ・責任の明確化
- ・独立性及び監査委員会に対する直接的な使用；会長及び最高経営責任者とそのような恒常的なアクセス
- ・法令等遵守や法令等遵守の監査との連携
- ・監査計画を完成させるための内部監査スタッフの質、経験及び適切性
- ・経営幹部、外部監査人及び監査委員会に対する信頼性
- ・技術的能力の水準及び研修の実施
- ・外部資源の使用

監査計画

- ・承認プロセス
- ・事業及びインフラの領域をどの程度カバーするか決定するプロセス
- ・事業部門が用いている自己評価に依存する程度
- ・他の特定の責任のあるプロジェクト、詐欺、新しい商品の承認を含むこと

方法論

- ・リスクベースの方法論の使用
- ・スコアリングシステムの定義及び理由付け
- ・自動化された手段の使用
- ・リスクの高い事柄に対し、警報を発し管理するプロセス
- ・事件の発生に応え、内部監査による調査を設定するプロセス

監査報告

- ・経営幹部と意見交換し合意するプロセス
- ・問題の認識を明確化し、優先順位をつける
- ・報告の適時性、監査段階の使用
- ・適切な経営幹部に対するレポートの配付

案件調査

- ・提言が適時に述べられることを確保するプロセスの適切性
- ・残っている例外的な事柄、もしくは提言をモニタリングするプロセスの適切性
- ・監査人やその他の人々から外部の提言を受入れる程度
- ・述べられなかったことに対するプロセスを急速に促すプロセス

リスクグループ	リスク要素
内部体制および内部統制（コントロールリスク）	34. 外注／第三者割当

外部委託もしくは、第3者の供給者の使用から発生するリスク、これらは第3者もしくはアウトソーサー外部の受託者に対する依存もしくは管理することを含んでいる

方針及び説明責任

- ・会社における承認のレベルを含む、外部委託及び第3者の提供者の使用に関する方針の適切性
- ・外部委託もしくは第3者の供給者との関係に係る全ての面での責任に関する明確化

供給者の選択

- ・供給者は競争力があり正直で財務上健全であり関係する知識や専門性を保有していることを確保するための手続き

供給者との同意

- ・会社と供給者との間の適切なサービス・レベルアグリーメントの存在、関係の定期的なレビューを行っていることの頻度及び実態
- ・内部監査人及び外部監査人から情報を得ることや供給者の監査人による報告を使用することの適切性
- ・FSAによる情報を適切に入手していること
- ・供給者の何らかの事柄について、会社が承知していることを確保するために供給者と会社の間で適切な報告がなされていること

モニタリング

- ・提供されるサービスが事業上の必要性に合致し、現在の戦略的目標と整合的であるかどうかということを把握することがなされていること
- ・供給者のシステム及び内部管理の完全性が維持されていることを確保するために供給者に対しモニタリングを行っていくこと

コンティンジェンシープラン

- ・もし契約が解除され供給者がサービスの提供ができない場合、新しい契約を設定するプランの適切性

リスクグループ	リスク要素
内部体制および内部統制（コントロールリスク）	35. プロフェッショナルアドバイザー

専門的なアドバイザーを使用することから生じるリスク、このことは、彼らの選別や関係のモニタリングに関する管理を含む

アドバイザーの選択

- ・ 選択のプロセス
- ・ 対象となる事柄に対する専門的なアドバイザーの適切性
- ・ 専門的なアドバイザーの名声
- ・ 会社と専門的なアドバイザーの関係の継続性
- ・ アドバイザーの変更に関する方針

アドバイザーの役割

- ・ 専門的なアドバイザーの会社からの独立性
- ・ 利益相反の管理
- ・ アドバイスが経営に活かされている程度
- ・ アドバイザーに依存しすぎている程度

リスクグループ	リスク要素
内部体制および内部統制（コントロールリスク）	36. 業務の継続性

事業の継続性に関する実態から生じるリスク、これらは事業継続計画のプロセス、質及びテストするプロセスの適切性を含む

戦略の展開

- ・事業の継続性に関するリスクを把握すること、全ての主要な事業ユニット及び事業活動をカバーするリスクを減少させる計画を立案し、継続的に更新する責任の明確化
- ・計画を立案し、承認することに対する経営幹部がどの程度参加しているか
- ・法令上等の発動措置に対する責任の明確化
- ・FSA、市場、決済機関や顧客／利用者もしくは会員に対する代替的な対応を伝える戦略の適切性

計画の質

- ・会社の事業やそのリスクへの脆弱性を勘案した計画の適切性（例えば立地、システムの回復力、市場や決済メカニズムにおける役割）
- ・重要な職員や設備の代替的な配置の適切性
- ・システムバックアップ及び回復の適切性
- ・市場におけるポジションを取得、適時にポジションを解約するための手続き

テスト

- ・テストの頻度
- ・テストを行う範囲
- ・テストから学んだ教訓

リスクグループ	リスク要素
内部体制及び内部統制（コントロールリスク）	37. マネーロンダリングの制御
マネーロンダリング制御の性質及び有効性から発生するリスク。これらは、MLROの有効性、研修、顧客及び／もしくはユーザーないしはメンバーの確認を含んでおり、内部及び外部への報告調整及び調整継続を記録している。	

方針

- ・ 内部方針マニュアルの充分性
- ・ マニュアルの配布
- ・ より高いリスク範囲についての最新の知識を含んでいるプロセス
- ・ マネーロンダリング規制の変更を内包したプロセス

マネロン報告者

- ・ 組織体系内での水準の妥当性
- ・ 役割と責任の明確化
- ・ MLROの質及び経験
- ・ 記録へのアクセス

研修

- ・ 研修を行うスタッフの経験
- ・ 頻度
- ・ 使用される資料の質及び完成度
- ・ 研修を受けるスタッフの範囲

「本人確認」手続

- ・ 名前と住所を確認するための手続きの充分性
- ・ 対象となる顧客の充分性
- ・ 「本人確認」プロセスの適切性

疑わしい取引の認識

- ・ 潜在的に疑わしいことの定義
- ・ レビューする取引を認識するプロセス及びシステム
- ・ 疑わしい取引の取扱手続
- ・ 疑わしい取引の報告手続

記録の保存

- ・ 報告文書の充分性
- ・ 文書の保存期間
- ・ 取引記録と監査手法の充分性

リスクグループ	リスク要素
内部体制及び内部統制（コントロールリスク）	38. 市場の透明性

市場乱用による影響を受けて発生するリスク。これらは、市場乱用、詐欺ないしは不正なトレーディング慣行を妨げる手法、及び市場施行と協調する事項を含んでいる。

投資者のための一般的な保護手段

- ・ 粗雑で不適切な目的の案件の使用を防げる方法
- ・ 不正行為と不品行、不注意ないしはユーザーによる案件取扱の不公正に対する投資者保護措置
- ・ ユーザーが当該ファシリティを使用するのを監視できる情報対策
- ・ ユーザーが問題提起を可能にする規則
- ・ ユーザーが規定や法的な必要条件に応じることを可能にする規則
- ・ 規定や法的な必要条件に反して市場が使用されるというリスクを緩和する規則

金融犯罪及び市場乱用

- ・ FSA 及び英国や海外の金融犯罪や市場乱用の検知、予防あるいは追求に携わる他の団体への情報開示規則
- ・ 異常な取引などのための案件の使用を監視するための規則
- ・ 金融犯罪もしくは市場乱用の潜在的な事例を協議する規則
- ・ 金融犯罪の予防するための関連した組織との協働

基準の向上及び整備

- ・ 市場活動規則を含む完全及び公平な取引の高い基準を維持し、向上させるための規則
- ・ FSA 及び他の関連機関との協働を許容し、必要ある場合は実際に行動するのを許容する規則

規律

- ・ 監視及びルールを遵守させる規則
- ・ 決済規則にしたがって監視及び遵守されるべき規則（認識された為替市場だけ）

リスクグループ	リスク要素
内部体制及び内部統制（コントロールリスク）	39. 協定の制定及び改廃 (主要マーケットのみ)

為替、手形交換ないしは他の主要な市場において行われる取引に対する市場参加者の権利及び義務の適時履行規則の運用により発生するリスク。

協定の制定及び改廃業務

- ・ 制定及び改廃に関する規則及び／もしくは慣習
- ・ 規則に合致した取引
- ・ デリバリーと支払の規則
- ・ 必要ある場合、マージン及び担保に関する規則
- ・ デフォルト阻止及び解決規則
- ・ デフォルト規則及び手続
- ・ 会員による決済モニタリング
- ・ 決済過程記録

リスクグループ	リスク要素
取締役会、経営陣、職員（コントロールリスク）	40. コーポレートガバナンス

会社の企業統治の特性から発生するリスク。これらは、取締役会、非常勤取締役及び役員会の役割及び有効性を含んでいる。

取締役会（もしくは同等な統治機関）の構成、役割及び有効性

- ・ 取締役会及び小委員会の体系及び委任事項
- ・ 取締役会及び小委員会の構成及びメンバーの能力
- ・ 会議の頻度、情報の質及び適時性、議事録の正確性
- ・ 指示水準、理解、モニタリング、業務活動全体に対するコントロール、企業に内包されたリスク及び上級経営者に対する課題
- ・ （英国上場企業に対して）アップデートされているように、コーポレートガバナンスに関するコンバインドコード Combined Code の遵守
- ・ 海外企業に対する、法的主体によるガバナンスを含んだ、ガバナンス規則の特徴

非常勤取締役

- ・ 常勤メンバーに対する非常勤取締役の比率
- ・ 指名方法、報酬決定方法、勤務期間決定方法
- ・ 技術と経歴
- ・ 独立した判断を下し、常勤取締役に対して適切な課題を提起する意欲と能力
- ・ 指名、報酬、監査委員会を含めた委員会への参加状況
- ・ 常勤取締役との関係の特徴

監査及びコンプライアンス委員会

- ・ 同等組織
 - － 取締役会の小委員会及び同等の委員会としての体系の明確化
 - － 内部監査／法令遵守に対する優先順位のつけられた業務計画の向上及び執行状況の監視の役割
 - － 承認されたリスク管理方針及び手続が効率的に実施されているか、及び内部統制が当該企業で機能しているかを確認する役割
- ・ 報告ライン及び構成
 - － 内部監査、監査遵守及び法令遵守委員会から独立した報告ライン
 - － 監査及び法令遵守委員会における非常勤取締役の地位
 - － 当該業務に相応しい他の常勤、及び非常勤メンバーの経験及び重要性
- ・ 運用
 - － 会議開催頻度
 - － 内部監査／法令遵守からの報告の質
 - － 重要な関心事項に関する議論及び常勤取締役の変更を含んだ会議の運営
 - － 常勤取締役がいない状況での外部監査人との定期的な会議の開催
 - － 認識している弱点に関する取扱いについての常勤取締役による行動の適切性

リスクグループ	リスク要素
取締役会、経営陣、職員（コントロールリスク）	41. 経営責任の割当及び明確化

経営責任の配分及び定義の特徴、及び権限委譲の有効性から発生するリスク。

経営構造

- ・ 企業の業務をモニタリングすること、及び適切なシステム統制の創造、維持を監査することを含めて、経営責任を明確化し、定義し、文書化すること。
- ・ 説明責任をマトリックス体系に配分するメカニズム
- ・ 法的組織の責任が効率的に果たされていることを確認する手法
- ・ 業務単位とグループ機能との間の相互交流の効率性
- ・ ビジネス原理が適切に配分されている下での義務を負う責任
- ・ 統制機能において承認された人間が、適合性及び適切性の観点から継続的に求められるものを満足しているか、また、その役割を効率的に行うために必要な権限を行使しているかを確認する手法

委任

- ・ 委任の程度
- ・ 委任された権限の文書化
- ・ 上級経営者が、委任された決定を監視することができることを確認できる方法
- ・ 個人が権限なしに決定を行い、企業が取引を行うことを約束することを禁ずる方法

コミュニケーション

- ・ 企業において経営責任が議論される方法及びそれらが理解される方法

リスクグループ

リスク要素

取締役会、経営陣及び職員（コントロールリスク） 42. 管理の質

経営管理の質に起因するリスクとは、経営陣の見識や倫理観、ビジネスへの適合性、幹部クラスの人間の操縦を含む。

見識及び倫理観

- ・ 見識、素養、能力
- ・ 管理された機能において、認められる人材を確保することは、常に求められる適性を確保する手段である。
- ・ 過去の実績と記録の追跡
- ・ 倫理観及び倫理基準に対する立場
- ・ 支配的な人物（勢力）を含めたリーダーシップ

ビジネスへの適合性

- ・ 市場部門における重要課題の把握
- ・ 経営陣が担うビジネスまたはコントロール分野における主要課題の把握
- ・ 経営陣による指示の水準、業務の枠を越えた理解と制御、経営陣が責任を持ち、かつ独立した視点を持つ分野に関連するリスク

幹部の操縦

- ・ 取締役会との関係（経営を行っている組織が、取締役会とは別の委員会である場合）
- ・ ミーティングの頻度
- ・ メンバー間の議論の程度、及びビジネスにおける主要課題の検討

リスクグループ

リスク要素

取締役会、経営陣及び職員（コントロールリスク） 43. 人的資源

人材問題に起因するリスクは、採用、研修、俸給、懲戒手順及び人的資源を含む。

方針

- ・ 研修及び実力主義の堅持を確保するための手順

人材資源の充実

- ・ 採用方針
- ・ ビジネス分野へのリンク

研修

- ・ 業務におけるニーズとのリンク
- ・ 内部規約及び手順の遵守を確保するための研修の適切性
- ・ 金融サービス法の遵守を促進する研修の適切性

俸給及び人員抑制

- ・ 俸給及び職員の人員抑制方針
- ・ リスクを監視し制御する能力に応じたボーナスの支給
- ・ 俸給とリスク（リターンとの整合性）の相関
- ・ 株式オプションの使用

懲戒処分

- ・ 懲戒手順の適切性

リスクグループ

リスク要素

業務とコンプライアンスカルチャー(コントロールリスク)

44. 監督当局との関係

FSA やその他の監督当局との、組織としての関係の特性に起因するリスクは、先般の規制の経緯も含む。

態勢

- ・ 監督当局に対する全般的な姿勢
- ・ FSA やその他の当局との関係特性
- ・ 監督当局とのコミュニケーションにおける時宜性、真実性、率直性
- ・ 監督当局から求められた際の情報提供の積極性
- ・ 監督当局から求められた際の上級職員の積極性
- ・ 最近の出来事及び留意事項に関し、当局に遅れをとらない積極性

過去の規制事項

- ・ 当局による問題点の勧告をうけての、機敏かつ効果的な対応
- ・ 法令違反に見られる特性及び程度
- ・ FSA やその他の監督当局による懲戒処分

リスクグループ	リスク要素
業務とコンプライアンスカルチャー(コントロールリスク)	45. 文化的テーマ及びビジネス倫理

金融機関の文化的環境から起因するリスクとは、経営陣のコンプライアンスや、適切な企業倫理規定の下で組織が運営されないリスクに対する取組態度を含む。

組織内文化

- ・ 組織内文化の特性及び透明性
- ・ 文化の醸成における経営幹部の関与
- ・ 文化の管理における取締役会の関与の度合い
- ・ 企業全体への文化の浸透度
- ・ 企業倫理の概論及び倫理方針の特性
- ・ 時間の経過や、組織としての重大な変化に際し、文化を評価、モニターするプロセス

リスク及び制御

- ・ リスクと制御のバランスに対する姿勢
- ・ 監督指針、規範、ガイダンスの遵守に対する姿勢

顧客及び/またはユーザーまたはメンバー

- ・ 金融商品に対する顧客理解を向上させるといった、顧客への姿勢
- ・ セールスカルチャー
- ・ 顧客及び/またはユーザーまたはメンバーの、クレームや懸念に対する責任

株主

- ・ 企業のオーナーに対する姿勢
- ・ 一般株主に対する開放性と待遇